

自然

グルマーイについての話

バースデーブリス(誕生日の至福)を祝って

グルマーイの話 1

リーラーヴァティー・スチュワート

つい最近、グルマーイは、アヌグラハの建物にあるアマリットの中庭を横切る途中で立ち止まって、そこにいた幾人かのセーヴァイトと話をしました。私たちはグルマーイを温かく歓迎しました。そしてグルマーイは、今あったばかりの自然の小さな生き物の一つとの美しいやりとりについて、話してくれました。

グルマーイは、一部にすりガラスが入っている窓から外を眺めていました。そのすりガラスの部分に、複雑な模様の羽を持つ、美しい大きな銀色のガが見えました。ガはガラスの外側を登ろうとしていました。それは少し登っては滑り落ち、少し登っては滑り落ちしていました。グルマーイは、ガが困っている様子を観察していたと言いました。ついに、彼女はガにこう言いました。「それがあなたができる最善なのですか？」グルマーイがそう言った途端に、ガは飛び立っていきました。

喜びにほほ笑みながら、グルマーイは言いました。「あのガはもっと自分を出せるということを見せたかったのです！」それがあなたができる最善なのかと挑戦されたガは、機に臨んで才能を発揮したのです。グルマーイは、彼が自分の最高のものを思い出し、自由に飛んでいく羽を見つけたのだと説明しました。グルマーイは言いました。「このガの逸話は本当に美しい教えです。人々はもがき、束縛され

ていると思っています。何に束縛されているのでしょうか？」グルマーイは空と庭園を眺めて言いました。「自然は常にこのような美しい例を与えています」

私は、グルマーイが他のセーヴァイトたちと私に、この美しい逸話を分かち合ってくれたことに感動し、感謝しました。これは、グルマーイがいかに自然のすべてと心を通わせているかという美しい実例であり、そして私に、私たち自身の偉大な能力を思い出させるものです。

グルマーイの話 2 ガリマ・ボーワンカー

2017年6月25日、グルマーイの誕生日の翌日の夕方、数人のセーヴァイトと私は、ニッティヤーナンダ湖の周りを散歩するグルマーイに同行しました。

私たちが湖の上の方の道を歩き始めるとすぐに、グルマーイは足を止め、反対側の丘の斜面の方を見詰めました。彼女は少なくとも200フィート(約60メートル)は離れている1本の木を指さし、言いました。「あの小さな木に止まっているショウジョウコウカンチョウを見てごらんください」。私たちは皆そちらの方を見ました。その木に止まっていた小さな赤い鳥の姿は、息をのむほどでした。グルマーイは、私がショウジョウコウカンチョウを見たかどうか尋ねました。私は興奮気味に言いました。「はい、グルマーイ、見ました！」そして、私たちはまた歩き続けました。

すぐに、グルマーイは頭上のハート形の雲を指さしました。私たちは皆足を止めて雲を見上げ、それを楽しみました。

私たちはもう少し歩きました。グルマーイが再び止まり、道に直立して地面に長い影を投げ掛けている小さな長方形の石を指さしました。グルマーイは、このような小さな石の影を見るのがどれほど好きかを話してくれました。

この小さな石が完璧なバランスとそんなにも長い影を見せているのは、本当に驚くべきことでした。私は思いました。「グルマーイがこれを指摘していなかったら、私は道の端にこんなにたくさんある石の中の、この小さな石のことなどまったく気づかず、そのすぐそばをただ通り過ぎていただろう」

散歩を続けていくうちに、私たちは皆、いろいろな美しいものに気づき始めました。形が変わっていく雲が作るさらに多くのハート形、トンボ、まるで空に浮かぶ銀の裏地のような、暗い雲の後ろの太陽から外に広がる光線。私は、自然の中のこれらの美しい形につながっていると、いかに心の中で軽さと喜びを感じるかということに気づきました。

その夜遅く、ちょっとした静かな時間に、私はグルマーイとの散歩の間のこれらのこの上なく素晴らしい瞬間を思い起こしました。すると、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトにあるギャラリー、例えば自然のギャラリーや「Commune with Nature(自然と心を通わせる)」や「Nishchintata(ニシュチンタター)」などのギャラリーの多くの画像と映像が、私の心の中に浮かび始めました。

グルマーイの目を通して自然を見たことで、私は自分が時間を取って今に完全に心を向ければ、自然が常に私たちに明らかにしているますます多くの奇跡を体験できることに気づきました。



© 2017 SYDA Foundation. 著作権所有。